

# 清水建設

清水建設北陸支店では、金沢市玉川町で新社屋の建設(4月竣工予定)を進めています。北陸地域初となる「ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)」を実現する新社屋は、国連が定める「持続可能な開発目標(SDGs)」の北陸の発信拠点としての役割が期待されており、今後、金沢工業大学と連携して、SDGsの達成及び地域社会への貢献に向けた活動を加速させていきます。



■THE SDGsアクションカードゲーム「X(クロス)」 SDGsの17個の目標に沿ったトレードオフの解消を目指します。トレードオフとは一方を得ようすると、他方を犠牲にしなければならない関係性を指します。AIやロボットなどの技術や製品などが描かれたリソースカードを使って問題解決のアイデアを出し合います。

ゲームの詳細は右の2次元コードから金沢工業大学SDGs推進センターWEBサイトにアクセスの上、ご覧ください。

## SDGs



自分たちに見えない  
「気づき」に期待

「今まであったものを掛け合わせることでイノベーションが生まれる」という考え方は、とても参考になりました。新社屋計画でも、水素利用蓄電設備や太陽光発電などの既にある技術を掛け合わせることで、エネルギーを削減しながら快適なオフィス空間をつくり出しています。

SDGsは国際的な目標であり、当社としても積極的に関わっています。地球のために企業ができるここと事業活動とを両立すること、特別なことをするのではなく、日常業務そのものをSDGsに生かしていくという考え方は、渋沢栄一翁の教えであり、当社が社はとする「論語と算盤」にも通じるものがあります。

今回の新社屋計画では、北陸の皆様とともにSDGsの達成に貢献していきたいと思っています。金沢工業大学の皆様には、この新社屋を題材に、様々な視点からご意見をいただき、私たちに新たな「気づき」を与えてほしいと期待しています。

### 宮本 茉央さん

何気ない日常の中にも貢献できることがあると感じました。難しく述べがちだったことも、理解してみると面白さがあります。苦手意識を持っている社員や周りの人たちに、参加するきっかけを提供できるようになればいいですね。

### 佐藤 大雅さん

カードゲームは物事を多面的に考える良い機会となり、コミュニケーションツールとしても優れています。SDGsは世界的に取り組むべき問題であり、企業の事業活動の中においても意識していくことが重要だと感じました。

### 伊藤 優佑さん

日々の業務にSDGsがプラスされるのではなく、業務そのものがSDGsである「業務=SDGs」という意識に変わりました。社内における機運を高めていくと同時に、日々の生活の中でできることを探していきたいです。

### 梶谷 久美さん

直面する課題をカードという慣れ親しんだ道具を使いゲーム感覚で解決。難しく思っていた私のSDGsの扉が開きました。SDGs達成に向け、当社の強みを生かした課題解決への「気づき」を学んでいきたいです。



清水建設は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。  
<https://www.shizui.co.jp/company/about/strategy/>



# まちなか

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

国内最高クラスの省エネ性能を備えた新社屋



### 清水建設が描く未来のカタチ

北陸支店の新社屋は、「北陸の地域・未来とつながるオフィスづくり」をコンセプトに、同社と産業技術総合研究所が共同で開発した「建物付帯型水素エネルギー利用システム」など、最先端の省エネ・創エネ技術によって地域初の「ゼロ・エネルギー・ビル(ZEB)」となります。

また、能登ヒバを利用した最新技術の耐火木鋼梁を開発・採用し、金沢の町家や寺院で見られる格天井を再現するなど、地域の建築文化との融合も図っています。

新社屋は、清水建設が提案する未来を表現する建築物であり、ショールームとして活用して水素利用蓄電設備をはじめとする最先端技術を広くアピールします。

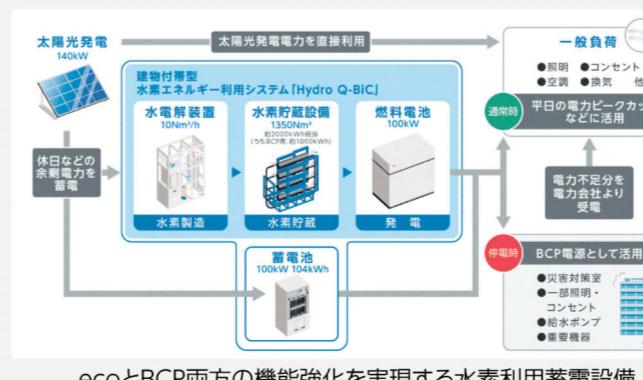
### 今後の取り組み

社内でSDGs推進を担う「ファシリテーター」を養成し、SDGsの社内展開を進めます。

また、新社屋に子どもたちを招いてSDGsイベントを開催することも考えています。



社員の健康増進と多様な働き方の実現を可能にするオフィス空間



ecoとBCP双方の機能強化を実現する水素利用蓄電設備

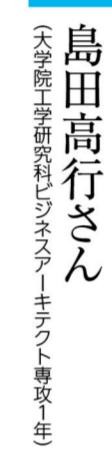
清水建設北陸支店は、2020年からSDGsへの取り組みを本格化させ、その一環として金沢工業大学との共同企画をスタートさせました。3月4日は、新社屋建設現場の見学会と打ち合わせが行われ、金沢工業大学からSDGs推進センターの平本督太郎センター長と学生ら8人が参加しました。

この後、金沢工业大学が考案したカードゲーム「X(クロス)」でSDGsの考え方を学びました。「育休を取得する人が増えたら、仕事が回らなくなってしまった」という課題のカードに対し、「人工衛星」や「アニメ」のカードから、「会社内に託児所を設けてはどうか」といった意見が出されました。

社員たちはカードの言葉からアイデアを発想することで、新たな思考の仕方を学んだようです。

# 金沢工大

社会システムを  
ビジネスで変える



島田 高行さん  
(大学院工学研究科ビジネスアーキテクト専攻1年)

2018年に学生団体「SDGs Global Youth Innovators」(GYIs)を立ち上げ、学生の立場からSDGsに取り組んできました。現在、SDGsに関連した事業を開発する株式会社LODUの設立に向けた準備をしていて、社会貢献をしながら仕事ができるSDGsの理念に強く感銘を受けています。

SDGsは世界共通の「ルール」で、人類が生きるために最低限守ることだと言えます。皆さん一人一人が活動をするのは難しいかもしれません。でも、例えば購入した商品が環境に優しいものだったら、活動に参加しているのと同じです。つまり、ビジネスならば一気に社会全体のシステムを変えることができます。

日本は脱炭素・循環型社会の実現が世界と比べて遅れており、日本を代表する企業と一緒に実現に向けて歩んでいけるのは楽しみです。楽しむことこそ持続していく原動力だと思っています。

### 亀田 樹さん

(大学院工学研究科ビジネスアーキテクト専攻1年)

実際に現場を見たり、働いている方の声を聞いたことで、共に成長していきたいという気持ちが強まりました。「誰1人取り残さない」ためのイノベーションの生み出しから、少しあれられたかなと思います。

### 鈴木 健斗さん

(大学院工学研究科ビジネスアーキテクト専攻1年)

能登ヒバと水素利用蓄電設備を活用した取り組みを見学し、この地域をけん引する役割を担ってほしいと思いました。私たちとの交流を通じて、社員の方々が身近に考えて行動できるきっかけになればと思います。

### 蟹谷 慧さん

(大学院工学研究科ビジネスアーキテクト専攻1年)

新社屋の環境に配慮した設備を見学したこと、「いろいろな技術を学んでいかなければ」との意を強くしました。企業単位での取り組みが非常に重要だと考えており、特に子どもたちへの波及効果を期待したいです。

### 青木 啓人さん

(大学院工学研究科ビジネスアーキテクト専攻1年)

たくさんのステークホルダー(利害関係者)に参加していたことで、大きな社会的インパクトを残したいです。環境・社会・経済が循環するエコシステムを形成し、企業連携の推進にもトライしたいですね。

### 藪内 一葉さん

(大学院工学研究科ビジネスアーキテクト専攻1年)

社員の方々から面白いアイデアが出ていて、実現したらどうなるのかワクワクしました。現在の快適な暮らしや、今後の環境問題にどのように影響するのか。そのバランスを取ることが大事なのだと伝えることができたと思います。